

TNVN 第19回総会

TNVN第19回総会に引き続き 庵功雄先生から ご講演をいただきました。

2012年4月22日(日)、13:10~14:20
東京ボランティア市民活動センターで開かれ、仁村議子さん(IWC国際市民の会)に議長をお願いしました。出席者24名。

議題は①2011年度活動報告、会計報告、監査報告、②新役員選出、③2012年度活動計画、予算案、④TNVN規約改定が提出され、多数により承認されました。なお新役員は8ページに掲載します。(議事資料は別途正会員にお送りします)

講演

「やさしい日本語」の本質とその必要性
庵 功雄氏

(一橋大学国際教育センター准教授)

ご講演はパワーポイント、プリントを用い、明解で分かりやすく、参加者には大変有益な、新たな示唆を得たご講演でした。日本語ボランティア教室での支援活動に大いに活用出来ると思います。

同じ表題でTNVN Network news No.77に寄稿を頂いています。

内容

“見出し”を列記します。

■「やさしい日本語」が求められる背景

①外国人に対する情報提供 ②定住外国人の増加 ③「地域型初級」の必要性

■これまでの「やさしい日本語」研究と本研究

①減災のための「やさしい日本語」(減災EJ) ②本研究の立場

■「やさしい日本語」とは何か

①補償教育 ②地域社会における共通言語としての「やさしい日本語」

■「ミニマムの文法」としての「やさしい日本語」

①ミニマム(最小限)の文法 ②理解レベルと産出レベル ③Step1の特徴 ④Step2の特徴 ⑤Step1,2と学校型における「初級」

■「やさしい日本語」と「にほんごこれだけ!」

①おしゃべり型教材としての「にほんごこれだけ!」 ②「これだけ!」の特徴 ③「これだけ! 2」の特徴

■公文書書き換えプロジェクト

寄せられた感想

*OHPを使って分かりやすく話してください、ありがとうございました。庵先生の肉声を間近で聞けて良かった。「やさしい日本語」が災害時以外の日常生活にも、必要ということに気づかされた。

*「補償教育を公費で」の部分は納得できる部分と「?」という部分があったが、時間が足りず、十分聞くことができなかつたのが残念。

*「にほんごこれだけ!」のテキストを使ってみたいと思った。

*一方だけでなくお互いの努力をすすめる先生のお話には頷くばかりでした。そして、この活動は決して難しいものではなく、だれでもが取り組めるというところに大きな希望をもちました。

*統計的な分析結果の紹介がありました。「ことば」と「数字」はなじまないようにも思

いますが、実際に使われていることばを統計的に分析することで、今の日本語を客観的に知ることができると感じました。

*目から鱗でした。初級者を教えていますが、戸惑いが多い中、先生の「やさしい日本語」を聴き、肩の力を抜いて出来るような気がしました。

TNVNの取り組みから

外国人への情報提供について全国の自治体・国際交流協会・その他で多言語化が進められています。一方緊急災害時では多言語(英語・中国語・ハングル・他)とともに「やさしい日本語」の必要性が叫ばれています。しかし多言語での情報発信には限界があり、災害緊急時のみならず生活ガイドや生活に関わる情報を「やさしい日本語」で発信する取り組みが広まりつつあります。

参照:日本語を母語としない人への情報発信等に関する実態調査・報告 平成24年1月
(東京都国際交流委員会/国際交流・協力TOKYO連絡会)

TNVNでは2010年8月の外国人への行政情報に関するアンケート調査を皮切りに「わかる日本語」研究会を2010年11月からスタートしました。日本語ボランティア教室等で、日本語の理解が十分でない、日本語を母語としない人に、行政情報を上手に伝える「わかる日本語」はどうしたら良いかを検討し、事例研究を行っています。成果報告を冊子に取りまとめます。



在留について 制度が変わります！

TNVN 編集・小松原祥一（行政書士（元日本語教師））監修

ボランティア教室で活動するボランティアの皆さんの多くが、「外国人登録証明書」を目にされたことがあるのではないかと思います。この「外国人登録証明書」の廃止を含めて、2012年の7月9日に日本の「在留管理制度」が大きく変更されます。

日本にいる外国人の方々にとってはとても大切な問題ですので、ボランティア教室でご相談を受けることもあるかもしれませんが、まず、ここで皆さんと確認しておきたいのは、仮に教室で外国の方からこの種のご相談があっても、安易にその場で判断することは慎みましょう、という点です。個々に事情も異なり、一般論だけで判断のできないデリケートな事柄ですし、制度が大きく変わるときにはいろいろな情報が錯綜します。必ず担当官庁が公表している元の情報を確認するようにしてください。その点をご理解いただいた上で、以下をお読みいただければと思います。

「在留」に関しては「法務省」の管轄ですので、最寄りの入国管理局が、「住居地」に関しては「総務省」の管轄ですので、住まいのある市区町村の役所が窓口となります。

*「法務省」は変更のポイントを以下のように示しています。

以下の制度の対象は、入管法上の在留資格をもって3か月を超えて日本に在留する「中長期在留者」です。短期間日本に滞在する外国人は対象ではありません。

変更点1 「在留カード」が交付されます。

(注「外国人登録証」ではありません)

変更点2 在留期間が最長5年になります。

(注これまででは最長3年でした)

変更点3 出国の日から1年以内に再入国する場合の再入国許可手続きを原則として不要とする「みなし再入国許可制度」が導入されます。

変更点4 外国人登録制度が廃止されます。

(注現在お持ちの「外国人登録証明書」は一定期間「在留カード」とみなされますので、急いで切り換えの必要はありません。)

*「総務省」は以下のように記しています。以下の対象は、「中長期在留者」「特別永住者」「一次庇護許可者又は仮滞在許可者」「出生による経過滞在者又は国籍喪失による経過滞在者」です。

① 外国人住民の方にも住民票が作成されるようになります。

② 5月から外国人住民の住民票の作成準備がスタートします。

(注市区町村では、5月から、順次、住民票に記載されることとなる内容について、対象となる外国人本人へ通知し、確認を始めています。確認された内容は市区町村において「仮住民票」として保管され、これが法施行日（7月9日）から住民票となります。)

「在留カード」など、「在留」についての不明点は、外国人在留総合インフォメーションセンター
電話：0570-013904 平日8:30～17:15
に、問い合わせてください。

また、「法務省入国管理局」や「総務省」「市区町村」のホームページに詳しい説明がありますので、お読みください。パンフレットなどの入手もご相談ください。



<参考>在留カード見本（法務省入国管理局サイトより）



フライブルグを歩いて 見つけたもの



大木 千冬 (町田日本語の会)

フライブルクはドイツ南西部にあり、シュヴァルツヴァルト「黒い森」と呼ばれる森の入り口近くにあり、最も美しい環境都市という名前が与えられている都市です。

中世の歴史地区として保存され、自動車の乗り入れは禁止されていて、街の中はトラムという電車が走り、人々の足になっています。

サラサラと流れる水路が街を縦横に流れて、夏は子供たちの遊び場になり、船を浮かべたり、素足で水の中に入ったりにして、夏の暑い時は涼しい気分を味わうのではないのでしょうか。水路は浅く幅も50センチくらいで、オアシスのようです。石畳の道を歩いて行くと、モザイクタイルで描かれた絵や紋章が家の前にあって、その家の仕事や、格式の高い事を現していて往時が偲ばれるようです。旧市庁舎、鯨の館、大司教の家など沢山のの中世の家がそのままに、後期ゴシック様式の華麗な装飾が、窓や壁、門などに施され、とても綺麗でした。街の中心

に高くそびえる大聖堂「ミュンスター」があり、道に迷いそうになると大聖堂を良い目印にして歩きました。聖堂の建物には、聖人や魔物のようなものが沢山飾られてチョット怖い気がします。この大聖堂を描いた画家は、東山魁夷で「晩鐘」という作品を残しています。

「晩鐘」は長野県信濃美術館の東山魁夷館に飾られているもので、妹が記念に買った絵葉書一枚でした。気に入って飾っていた大聖堂が、数年後に姪がドイツ人と結婚して住む街になったとは大変驚きました。大聖堂の広場には「マルクト」という市場が立ち、パン、チーズ、花、蜂蜜、木工製品などが出ていつも賑わっていました。この街には多くの日本人も住み、日本文化を大切に色々な行事が行なわれていると聞きました。子供会では年に一度、運動会が開かれ、仲間の中にオペラ歌手がいて、その人が歌うラジオ体操の歌から始まり、ラジオ体操第1と第2をしてから大玉ころがし、綱引

き、パンくい競争、二人三脚などして、又お昼はお弁当を広げて皆で食べるそうです。その時は思い切り日本語でしゃべるようで、ドイツ人と結婚した人達の日本への思いが伝わる気がしました。

1月に行きましたから、毎日、氷点下の気温が続き、空気は刃物のように肌を刺して、口や鼻を覆うものが必要でした。重たい雲が垂れ込めて太陽の出ない日が多く寒い季節でしたので、日本へ帰り、陽の光と空の青さにホッとした事を覚えています。

フライブルクの街歩きは、前に歩いたと思っても、常に新しい物を見つける楽しさがありました。世界一小さな窓を持つと云われているカフェや川の中に鱶の石像が顔を出していたり、又赤熊亭というドイツで一番古いレストランもあり、小道に入るたびに初めて見たような気分は何度もなりました。森に囲まれた美しい街、又エコライフの街、ゆっくりと時間の流れるフライブルクでした。



わたしの国ミャンマー

テイ・ザ・チヨウウ／ミャンマー

初歩日本語（練馬区）



主食は米で、食事の約75%を占めま

す。独特の方法で加熱調理した肉や魚、スープ、サラダ、野菜などすべての料理がテーブルの上に並べられ、好みのものを選択したり組み合わせたりできるようになっています。一番人気がある料理は米麺に魚のスープを添えたモンヒンガーで、朝食や特別な機会に食べます。



ミャンマーは祭りの国で、毎月祭りがあります。ほとんどが文化的、宗教的で、全国規模ですが、いくつかは地域的です。お祭りや特別な催しの日には旧暦で決定されます。ミャンマー暦の第七の月に催されるタディンチュは四旬節の終わりを示します。晴れた日が続く頃で、天からの仏の復帰を祝う光の祭りです。公共の建物、道路や家屋に着色された電球やプラスチックや提灯が飾られ、光に満ちます。4日間の水掛け祭り（変更を意味するティンジャン）が終わると新年が到来します。祭りの期間中、人々は友人や路上の見知らぬ人に水を掛けます。年末に注ぐ水が心と身体の汚れを清めると信じられています。塔や僧院へ行き、僧侶や尼僧のために食べ物をお供えします。日本にも様々な伝統的な祭りがありますから、体験したいとわくわくしています。

ミャンマーにはいくつかの点で日本と同様な文化的な認識があります。例えば伝統的、宗教的な習慣の下での生活、高齢者を気遣うことなどです。日本には外国人留学生にとって非常に快適な環境があります。日本人はフレンドリーで親切なので日常生活を楽に過ごすことができます。

一生懸命日本語を勉強して、日本の大学院で勉強が続けられるよう、努力しています。

私はテイと申します。ミャンマー連邦共和国（1989年までの国名はビルマ）の首都だったヤンゴンで生まれました。医学部二年生の時に奨学金でインドネシアに留学し、5年後に卒業して医師になり、津波に襲われたインドネシアの小さな島で被災者の医療を経験しました。

2008年に山梨大学病院に2か月間交換留学生として来日し、最先端医療技術を見学しました。5年前に知り合った日本人女性と生活を共にするため、2011年に再度来日し、日本語学校や自宅近くのボランティア教室に通って日本語と日本文化を学んでいます。

ミャンマーは東南アジアの共和国で現在の首都はネピドーです。インドシナ半島西部に位置し、北東は中華人民共和国、東はラオス、南東はタイ、西はバングラデシュ、北西はインドとの間に国境があります。東南アジアではインドネシアの次ぎに大きな国です。雨季と乾季がある熱帯・亜熱帯の国ですが、北部にはヒマラヤの山々に続く東南アジアで最も高い、ハカボラジという素晴らしい氷の山があり、外国人観光客にとって魅力的なハイキングの場所として最近有名です。

19世紀以前のミャンマーは君主制で、様々な王朝が支配していました。1888年に大英帝国が植民地化し、100年以上統治されましたが（1943年から1945年までは日本が支配）、1948年1月4日にビルマ連邦として独立しました。現在は大統領制で、135の異なる民族が正式に認められている多民族国で、7つの管区と7つの州に行政区分されています。

主な宗教は上座部仏教ですが、国教はありません。国民は敬虔で、すべての町や都市に少なくとも一つの塔と仏教の僧院があります。宗教は、人々の生活に重要な役割を果たしていて、日々の生活と仏教の儀式は分離できません。

ミャンマーの主要な経済は農業、米の生産です。米の生産地は、国内の総耕地面積の約60%になります。天然資源も豊富で、石油、ゴム、沖合の天然ガス生産、ルビー等宝石類が国の経済に影響を与えています。2011年の新政府により、経済は上向きです。

「中野区国際交流協会」訪問記



2011年度が終わりに近づいた3月19日、東京日本語ボランティア・ネットワークから派遣されて2名が訪問しました。アドバイザー・中山真理子さんに、常務理事はじめスタッフをご紹介いただきました。

教室のほかに「日本語準備室」があり、学習者の進度の記録入れ、中野区独自の

国際交流協会の仕事は区の中に吸収されています。まずは区役所の係の方に中野区国際交流協会の見学を勧めて、見てもらうようにしなければと、今は決意しています。

まず、日本語の教育(外国人のため)にどのような努力をされているかをお聞きし、特に子供たちに対する力の入れ方には感銘を受けました。都内では珍しいと思ったことは、教育委員会との連携体制が確立されていることでした。予算面ではもちろんですが、親の都合で日本に暮らすようになった子供たちへの心づかいが、きめ細かく感じられて感動でした。さらに、協会が、中山さんの提案に基づいて講座を開き養成したボランティアへの研修制度が充実していて、年間80時間の勉強会があるとのこと。ボランティアの質の高さを垣間見たことでした。学習者の数、年間延べ6,000名。ボランティアの数、年間延べ5,000名。学校からの日本語指導員派遣要請にも応えて、すばらしい活動をしてられます。

広い教室いっぱい、学習者とボランティアがほぼ1対1で、熱心に学習に取り組んで、レッスン半ばでティーブレイク。ほっと一息つくと、再び活気あふれる教室になります。夕方4時15分からは、子どもたちがやってきます。中、高校生に混じって小学生もいます。大きな生徒たちが熱心に取り組んでいる姿が小学生に良い刺激になり、しっかり学習しています。

の教材(教科書、練習帳、テスト)、たくさんさんの日本語関係の本、書庫いっぱい教材や資料には感嘆でした。「うらやましい」のひとつです。

また、中野区では「わかる日本語」「やさしい日本語」にも早くから取り組んでいます。都や、区からの情報を平易な日本語に直してから、英語、中国語、タガログ語など多言語に翻訳し、「わかる日本語」とともに、「わかる外国語」で伝えています。

私たちは、自治体に働きかけて、「こんなに充実したところもあります。ぜひ、少しでも近づけるよう力を貸してください」と、がんばらなければと反省しきりでした。ただ、私の区は、4、5年前から国



中野区に、はじめからこのような充実した種々のシステムがあったわけではなく、日々の努力と熱意の結果と思われます。私たちは、自治体との関係をうまく持ち、理解を得て、自治体が、日本語ボランティアの努力を支えてくださることを、切に願っています。訪問の間も事務室の中で、近くの高校に留学中の3名の生徒さんが指導を受けていました。必要とする生徒がいれば、どんな時でも力を貸して支援なさる体制のあり方には感心しました。中野区の日本語教育は、中山さんやそれを支えるスタッフの努力があってこそでしょう。

(小川伶子 岡田美奈子)

難しい日本語

張志琪／中国
小平日本語ボランティアの会（小平市）

私は張志琪と申します。中国の吉林省から、去年の9月に参りました。

私は日本に来て、半年になりますが、来る前は、日本語がすこしか話せなかったの、日本で生活ができるかどうか、不安でした。一生懸命勉強しているので、日本語がすこし話せるようになって、毎日、とても楽しく充実しています。

日本語の勉強を始めた時、言葉を覚えるのに大変苦労しました。例えば、服は着る、ズボンをはくと言いますが、中国語では全て穿（ハ）くと言います。また、日本語は読み方が同じなのに、書き方が違う言葉があります。書き方が同じでも、読み方が違う言葉もたくさんあります。日本人があたりまえのように使っている言葉でも、外国人にとってはとても難しいと感じます。ある日、私の中国人の友だちが渡る橋と食べる時に使うはしを言い間違えて、み

んなで笑ったことがあります。

日本は地震が多い国です。初めて地震があった時、とてもびっくりしました。でも今はすこずつ慣れて来ました。地震が起きても、あわてず、テレビをつけて、地震の速報を見て、震源地を確かめることができるようになりました。

迷ったり、困ったり、戸惑ったりすることが多いですが、半年の留学生活で、私の心は強くなって、成長もしたと思います。日本の文化や習慣もすこしわかるようになって来ました。留学の目的を達成するまでは、困難なことが多くても、決してあきらめません。私の夢は日本の大学院で物理を研究することです。その夢はかならずかなうと信じています。



ボランティアの声

中谷正明
小平日本語ボランティアの会（小平市）

二期一会の場について

平成17年から今日までに本会に参加した学習者数は23ヶ国で延べ127人に上る。その中で特に私の心に深く残った学習者を若干紹介してみよう。

D少年は中国ウイグル自治区の出身だ。日本で中学時代を過ごし、高校へ入学して間もなく両親とともに郷里のウルムチへ帰った。その約一年後、当地の市街で大規模な暴動が発生、多くの若者達が巻き込まれたとの報道があった。D君は無事だっただろうか？ 教室で日本語を学んでいた頃はよくウイグルのことを熱っぽく語ってくれた。そんな彼も、今頃は立派な青年になってほしいと願うばかりである。

アメリカのR君はアニメ好きな某大手通信社の研究員である。滞在中に日本の武道である弓道に興味を持ち、道場に通う

ほどにもなった。帰国直前に私は新渡戸稲造著「BUSHIDO」を一冊贈呈した。本国の大学に戻って科学者になるという。成功を祈りたい。

武道といえばロシア出身の夫妻を思い出す。妻は大学院留学生だ。夫は同行滞在者であるが東洋哲学の造詣が深く、居合道の有段者でもある。袴姿で真剣を持って構える写真を見るとまさにロシア人サムライだ。帰国後、更に研鑽を積んでいることだろう。

S君は台湾人留学生だ。日本が大好きで東北地方をよく旅した。そして帰国。その後、大地震と大津波が日本を襲う。その直後、台湾の彼からお見舞いのメールが入る。今年の3月11日、再びメールをもらった。

S君はまるで自分の国のことのように私達支援者と共に悲しみ、激励してくれたのだ。

私は一瞬、胸が熱くなり思わず目頭を押さえた。

学習者の多くは、日本にやってきて、そしていづれ去っていく。明日からもどんな「出逢い」があるのだろうか。



新年会にて

2012年度 役員・スタッフ

右記のメンバーで活動を行っています。
皆様ののご支援・ご協力をお願いします。

代表	梶村 勝利 (早稲田奉仕園日本語ボランティアの会・新宿区)
副代表	床呂 英一 (まちだ地域国際交流協会・町田市)
事務局長	林川 玲子 (ビバ日本語教室・港区)
会計	矢崎 理恵 (社会福祉法人 さほうと21・品川区) (兼務) 林川 玲子 (ビバ日本語教室・港区)
会計監査	嶋田 信子 (グッドナイト日本語教室・江東区)
スタッフ	小川 伶子 (初歩日本語・練馬区) 岡田 美奈子 (やさしい日本語・江東区) 大木 千冬 (町田日本語の会・町田市) 山本 英子 (小平日本語ボランティアの会・小平市) 鶴田 環恵 (ニュースレターレイアウト・在宅) 大滝 敦史 (ホームページ管理・在宅) 松川 彩子 (Web学習者からの問い合わせ対応・在宅)
運営委員	中山 真理子 (中野区国際交流協会・中野区) 武貞 明子 (東久留米にほんごクラス・東久留米市) 坂本 弘一 (かけはし・足立区) 石橋 穠治 (日本語サークルくりはら・足立区)



TNVN 東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVN の会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVN は会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報発信を行い、活動の活性化を図ります。

◎2012年度TNVNスタッフの活動計画

2011年度と同様、下記を重点的にを行います。

- ①ニュースレターの発行(No78, No79, No80, No81)
- ②TNVNホームページの運営・日本語学習希望者・支援者への情報提供他
- ③地域での日本語ボランティア講習会への協力(出前講習会)
- ④事務局(毎週金曜日)
- ⑤「わかる日本語」研究会を昨年度に引き続き開催
- ⑥東京都国際交流委員会、国際交流・協力TOKYO連絡会、その他関係機関・団体等との連携・協力

◎今年も2月18日 JICA地球ひろばで

“国際化市民フォーラム in TOKYO”が

東京都国際交流委員会／国際交流・協力TOKYO連絡会主催で開催されました。

外国人登録者数が41万人の東京。国際化への理解と認識を深める機会とするため、震災と「わかる日本語」の2テーマ(4分科会)が取り上げられました。

そのうち、2つの分科会では“情報提供としての「わかる日本語」”を表題に報告があり、前回

「わかる日本語」をテーマに取り上げての第2弾です。

◎第2分科会…日本語を母語としない人への情報発信等を考える

◎第4分科会…「わかる日本語」の取り組みから見えてくるもの

「わかる日本語」研究会でともに活動しているメンバーがコーディネーター、パネリストとして報告を行いました。

column

高校入試

今年もまた、高校入試の時期になり、教室の受験生たちのことで気が休まらない日が続いていました。中二の秋から日本に来た子供が2人いて、どうなることかと心配していたところ、都立T高校の合格が決まり、ほんとうにうれしい限りです。本人、両親、係わったボランティア、みながホットしました。

今年四月、中三になる男の子は、小五の秋から日本に来て、ずっと私が係わったので、心配もひとしおですが、野球が大好きで、ボールとグローブを身近において一生懸命です。

塾にも行っているのですが、教室にも時々来ます。最近では志望校を決めて、野球が続けられるところに行くことが確定的です。しかし来春は又ドキドキすることは確実です。

次の年は、女の子2名が高校入試となります。小五の秋から教室に来ていて、高校のランクなど細かいことの助言のほか、教科のほうも見ています。大学に繋がる高校へ是非入学させたいと、本人はもちろんボランティアの責任は重大です。

毎年、春はドキドキはらはらしながら、案外このスリルを楽しんでいる自分がいます。若さの秘訣かしら!! (3月末記) (O)

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日

- 第1、第3 金曜日／午後2時～4時
- 第2、第4 金曜日／午後2時～6時
- 第5 金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線一出口 B2b) 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしております。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

● TEL : 03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

● FAX : 03-3235-0050

● E-mail : webadmin@tnvn.jp

● URL : http://www.tnvn.jp/

● 郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●新会員紹介

正会員 光が丘ことばの会 (練馬区)

●会員数 (2012年5月11日現在)

正会員：84団体、団体協力会員：2団体
個人協力会員：21名、賛助会員：4団体

●編集／大木千冬、岡田美奈子、小川伶子、梶村勝利、床呂英一、林川玲子、山本英子

●レイアウト／鶴田 環恵